

四谷の

千枚田だより



第 227 号



棚田(千枚田)サミット

第二十七回全国棚田(千枚田)サミットが十月一日(土)・二日(日)の二日間、滋賀県高島市で開催される。鞍掛山麓千枚田保存会は高橋孝行、田中幸夫、原田英史、丸地典利、高橋義昌、松下 誠、小山舜二が参加する。

一日目 オープニング↓開会式↓事例発表↓基調講演「棚田地域の保

全と継承↓分科会(第一分科会 棚田を守る「人」が芽生える。第二分科会 棚田に根付く「価値」を繋げる。第三分科会 棚田を囲む「くらし」を感じる。特別分科会「棚田まもりびとミーティング」。

なお、小山舜二は、棚田研究の第一人者でもある棚田ネットワークの中島峰広先生(早稲田大学名誉教

棚田をつなぐ人のかけ橋

第27回 全国棚田(千枚田)サミット

2022 in 高島市

2022 10/1(土)・10/2(日)

滋賀県高島市

開催地: 高島市 高島市役所 2階 高島市民会館 今津地区コミュニティセンター

会場: 10月1日(土) >> 10月2日(日)

主催: 全国棚田(千枚田)連絡協議会 第27回全国棚田(千枚田)サミット実行委員会

問い合わせ先 第27回全国棚田(千枚田)サミット実行委員会 事務局 TEL: 0740-25-8529 FAX: 0740-25-8519 E-mail: nouson@city.takashima.lg.jp



授)からの推薦で、棚田の保全や地域活性化に関わる取組について話し合う特別分科会 棚田まもりびとミーティングに参加する。

二日目 現地見学会 山裾に幾何学模様広がる「畑の棚田」コースに参加予定。

稲作一口メモ

六月二十七日、観測史上始まって以来、最短の梅雨明け宣言(十四日間)がされた。例年平均四十三日の長き日に渡るうっとうしい梅雨も明け、やれやれと思いきや、毎日が雨、雨、雨の日が続き、稲の受粉、幼穂形成期の日照不足の影響を心配。これでは、今年も千枚田の豊作は望め

ないと嘆いていたが、七月末からお天道様も見かねたのか、快晴の日が続いた。快晴は快晴でも稲の実りには大変ありがたいが六月下旬の記録的な猛暑日に続き、七月末日から八月早々、連続で三十五℃超え。各地で熱中症警戒アラートが発令、「経験したことのない」、「命の危険を及ぼすレベル」と報じられた。

なんだかんだ言っても「♪ 稲の出穂には出ムラがあるが、今宵踊る娘にやムラがない♪」と、盆唄にもあるように、まあまあ順調に生育している。稲の出穂が七割から出揃った十日くらい(登熟期)のカメムシの被害(斑点米)に注意したい。

盆行事(身平橋を事例に…)

「お施餓鬼」(寺施餓鬼)盆月の八月五日、ご祖先様、初盆の供養を行うのと同時に、餓鬼(「餓鬼道」に堕ちて飢えや乾きに苦しんでいる魂や無縁仏)と一緒に供養する行事で生前に徳を積む事により、自分にも救いがあるという法要で、檀家衆は僧侶のありがたい読経のあと、寺庄屋が支度した酒肴でコミュニケーション(施食会)を分かち合う習わしであるが、コロナ感染症を危惧して、本命の施食会は中止となつてしまつた。



僧侶は寺施餓鬼を終え、檀家を廻つて先祖の供養、家施餓鬼も同時に行う。

「迎え松明」八月十三日の夕方に軒

先(上坂)で松明を焚き、戻ってくる先祖の霊が迷わないように、目印として松明を焚くお盆の風習である。
念仏踊り「はねこみ」

通常であれば十三日に海源寺で本尊様の念仏、はねこみ、手踊りを行い、十四日には初盆宅で松明灯しと念仏、はねこみ、手踊りを行うが、コロナ禍のため「はねこみ、手踊り」は中止となつた。

「送り松明」

八月十六日の夕方、お盆と一緒に過ごした先祖の霊を送り出す風習である。

「堂施餓鬼」

盆の十六日に海源寺で行うと同時に風まつりも行う。

「風まつり」

嵐を鎮めるための農耕儀礼。収穫前の農作物が被害に遭わないよう祈願する習わしで、五穀豊穡、家内安全の願いを託し、竹竿の先に藁を束ね、紙垂(しで)を飾る。

害獣被害

田植え後にニホンジカが田んぼに侵入、早苗を食い荒らされ、頭に来た百姓は海苔網などを田んぼに張り巡らし対処したが、八月七日、千枚田周辺の畑の作物(かぼちゃ、スイカ、ネギまで)を全滅に近いまで食い荒らされてしまった。小山孝夫は「かぼちゃもスイカも、まあいか(食べられる)と思つたら、若い衆(サル)に、先にやられちゃつた、

やんなつちやうゾン…」と嘆いていた。八日早朝、田んぼの水を見に行つた中村直人は「エテ公(サル)の奴らに稲穂はすっこかれるし、稲は踏みまくられるし、参っちゃうゾン、これから、カーマへ行つて電気柵の線を買つてきて網の目のように張つてやらにやあ、米が食えんでノン…とベソをかきながら軽トラで出掛けていった。



賑わう千枚田

あまりにも有名になつてしまつた千枚田。一昨年も、昨年も千枚田入口付近は観光客が押し寄せ、集落の生活環境にも影響が多出した。昨年、新城市鳳来総合支所地域課に実情を説明、苦肉の策として集落生活道路に「集落あり 生活道路に車をとめないでくれんのん」の看板を設置。また、歩いて約十分圏内の旧連谷小学校職員駐車場にも臨時駐車場を開設した。(写真)

保存会は千枚田入口の山手側にカラーコーンを設置、来訪客の啓発を図つた。



今年も盆、収穫期と賑わうことを想定。地元ではやれるだけの事はやつてゐる。あとは、訪れる人たちのマナーに委ねる。

行 令和四年八月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山 舜二